

# 令和7年度地域における医療連携に関するアンケート調査

## 回答結果

### 1. 調査概要

---

#### 【アンケート調査の趣旨】

地域の医療機関と積極的に連携を図り、地域に根差した医療機関として質の高い精神科専門医療の提供を目的とした医療連携室の開設から約3年が経過した。令和7年4月からは組織を改編し、新たに入退院支援センター地域連携部門としてスタートを切ったところである。

今後更なる連携を図るほか、日々多様化する医療機関におけるニーズに対応できるよう、当センターの課題を把握し、医療サービスを向上させ、さらには今後の地域における医療連携の在り方等を検討する。

なお、令和5年度から開始したアンケート調査であるが、毎年の定期調査とし、継続的に地域の医療機関におけるニーズを把握していきたい。

#### 【調査対象】

伊奈町・上尾市・桶川市・蓮田市・白岡市の夜間・休日診療所及び休止中を除く全医療機関

県内及び東京都北区の精神科・心療内科を標榜する医療機関のうち、認知症専門やホームページ上に精神科・心療内科の記載が無い施設を除いた機関

その他、当センターと医療連携があった医療機関

#### 【調査期間】

令和7年9月～10月

#### 【調査実績】

アンケート送付数：766件

アンケート回答数：86件（回答率：11.2%）

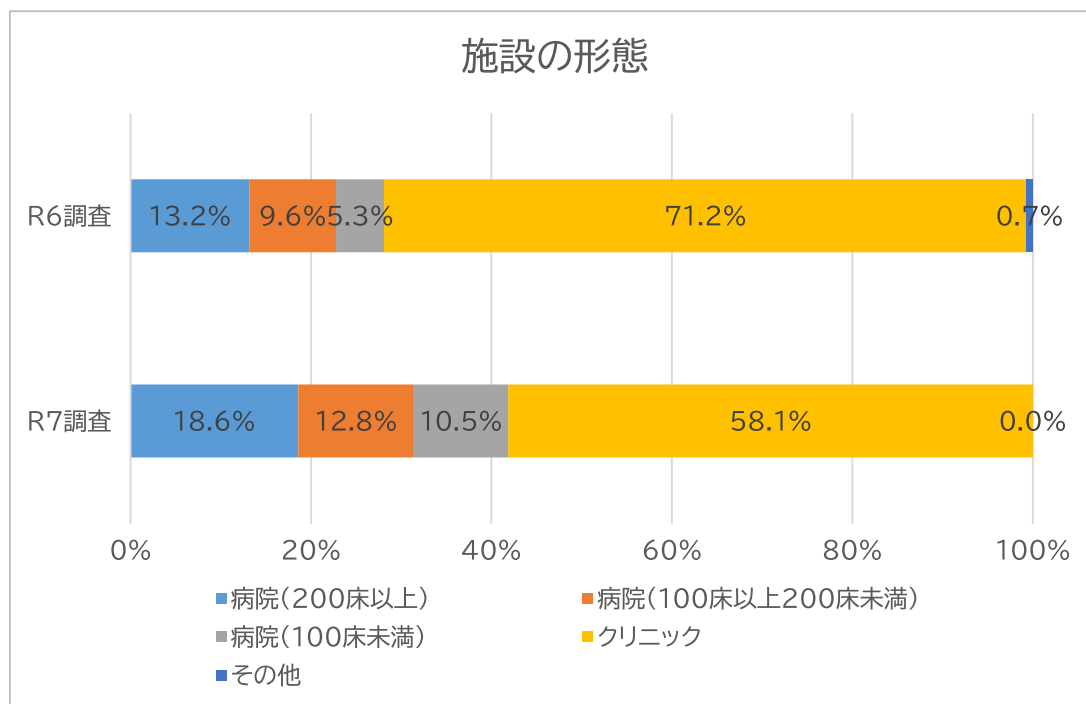
[参考] 令和6年調査

（アンケート送付数：761件  
アンケート回答数：281件（回答率：36.9%）

## 2. 調査結果

### 1. ご回答いただいた施設について

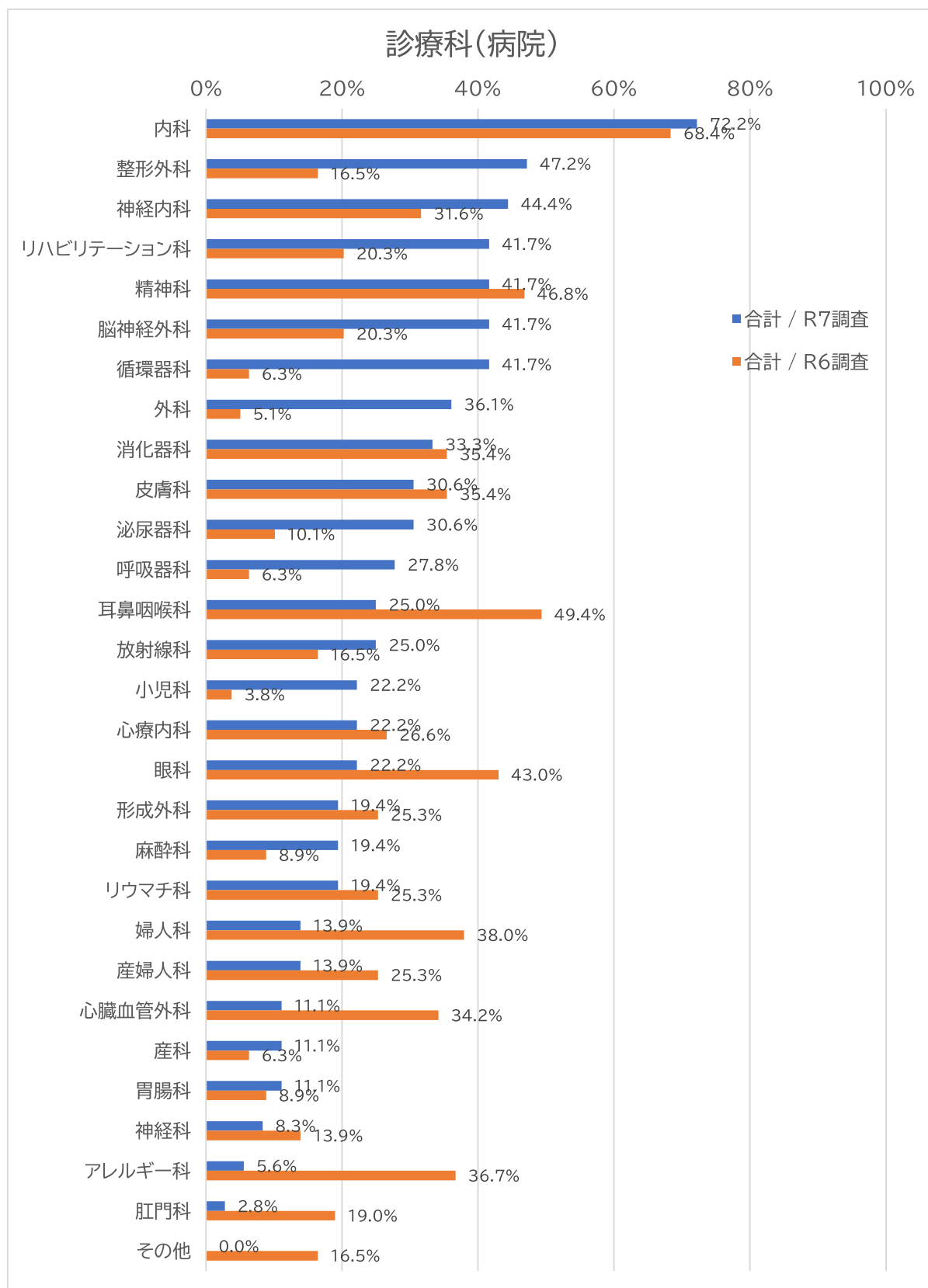
#### (1) 施設の形態



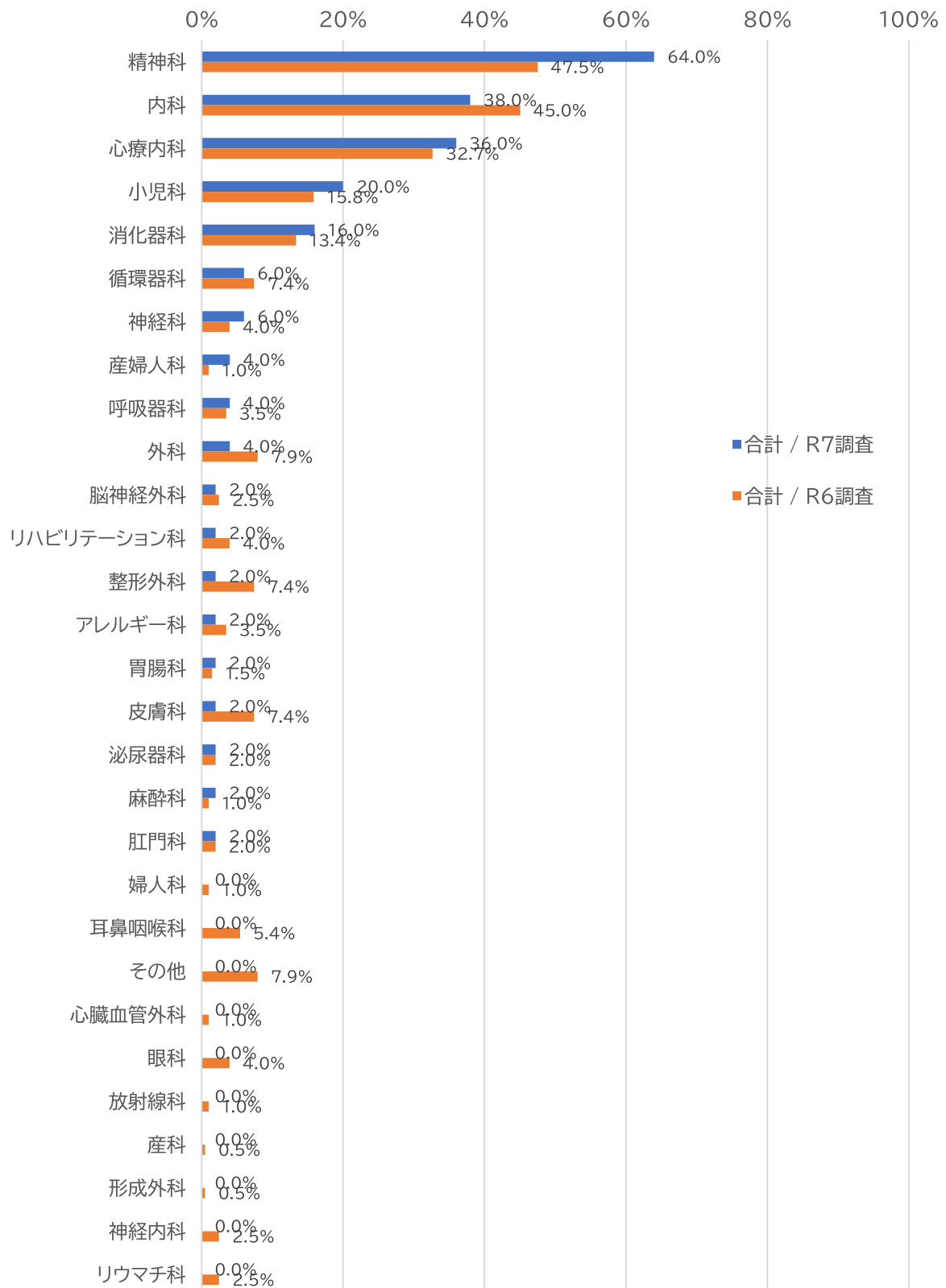
ご回答いただいた 86 件の内訳は、病院（200 床以上）が 16 件（18.6%）、病院（100 床以上 200 床未満）が 11 件（12.8%）、病院（100 床未満）が 9 件（10.5%）、クリニックが 50 件（58.1%）であった。

次の設問から「4. 当センターに対する認識について」まで、回答のあった 86 件を病院 36 件とクリニック 50 件に分けて報告する。

(2) 診療科＜複数選択可＞



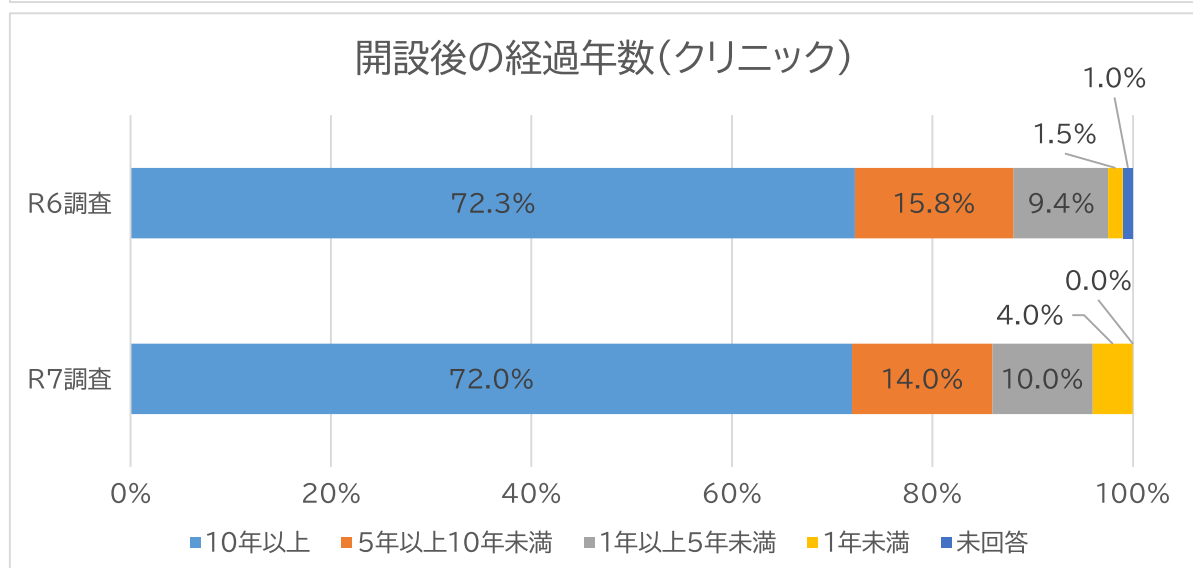
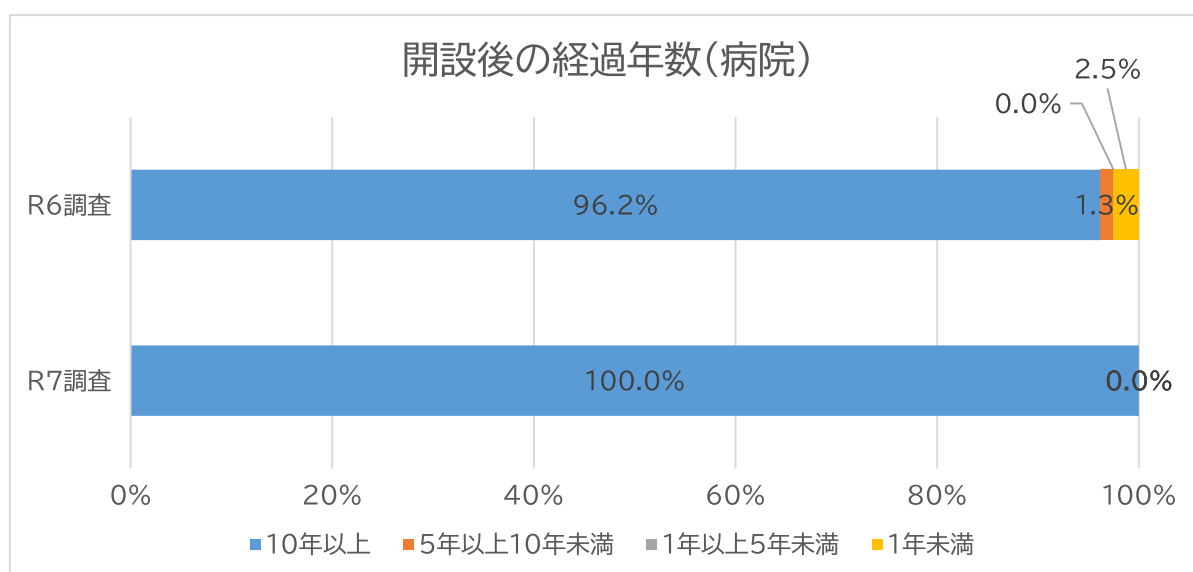
## 診療科(クリニック)



昨年度は病院、クリニックともに約半分の施設が精神科診療を標榜しているとの回答であったが、今年度の回答では病院で約4割、クリニックで約6割となった。

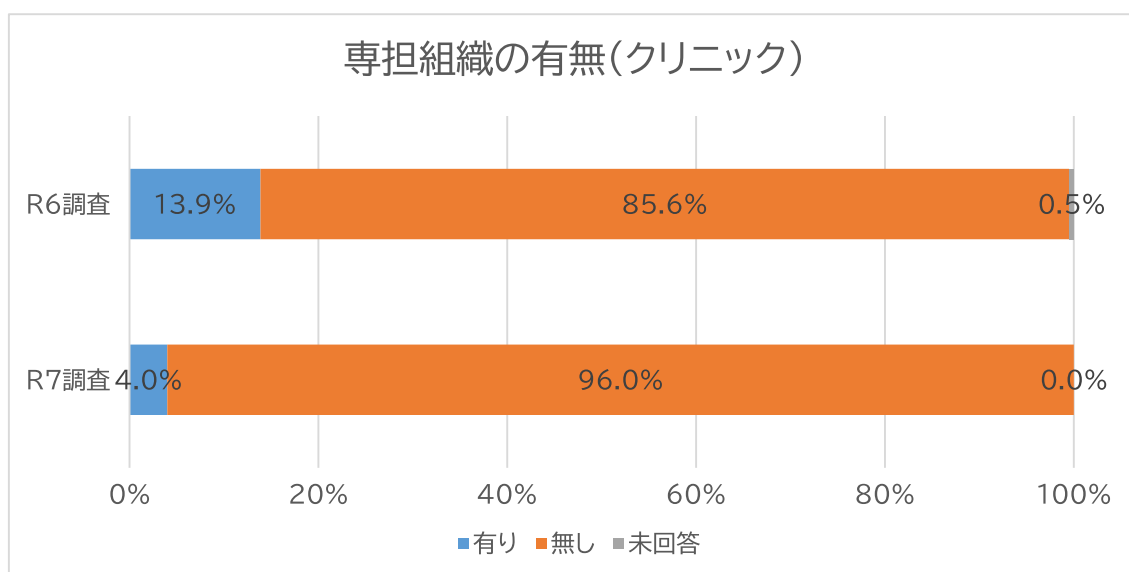
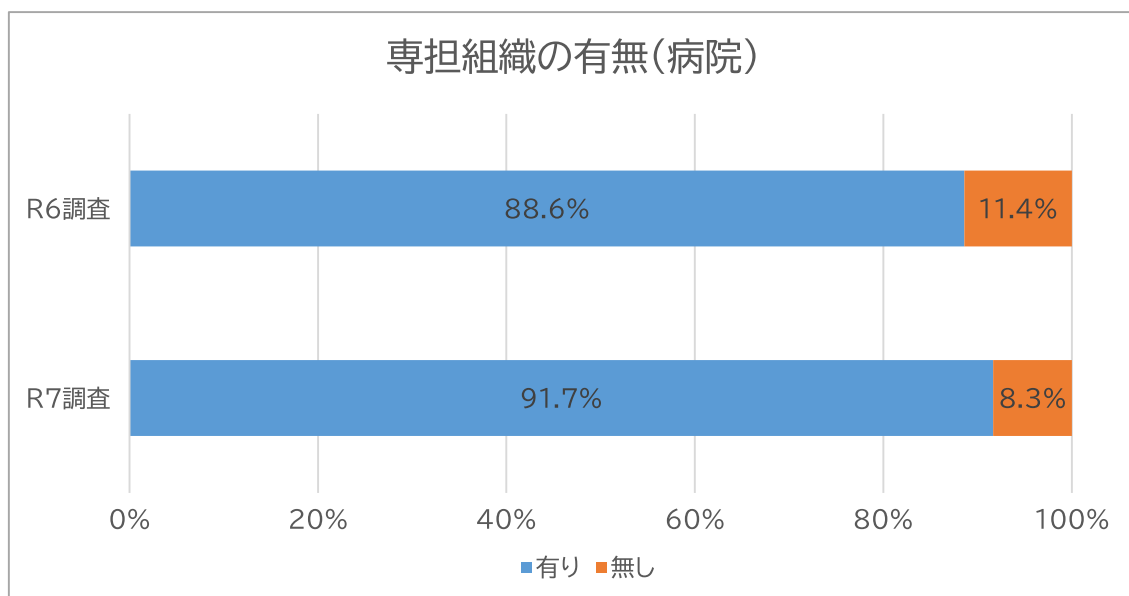
精神科の他では、当センターがアルコール依存症専門治療や児童・思春期の患者の治療を行っていることから、内科や小児科を標榜している施設からの回答を多くあった。なお、病院においては昨年度と比較すると、整形外科をはじめとした様々な身体科の施設から回答を多くいただいた。

### (3) 開設後の経過年数



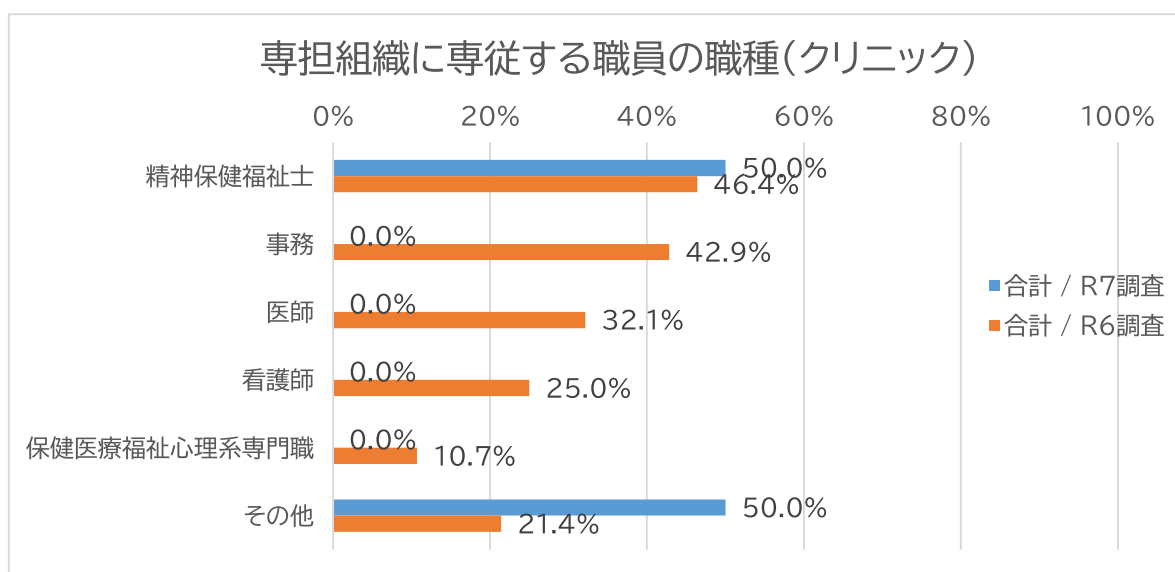
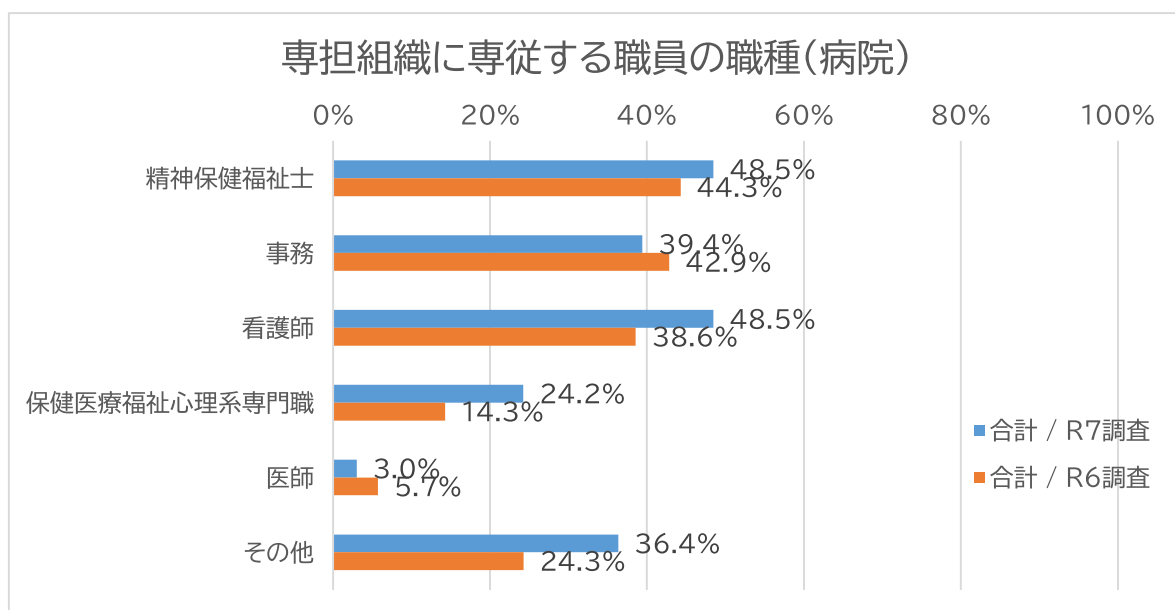
病院では全て、クリニックは約7割が開設から10年以上が経過している施設であった。また、クリニックにおいて開設から1年未満の施設から2件回答があった。

(4) 他の医療機関との連携を図るための専担組織（例：医療連携室）の有無



他の医療機関との連携を図るための専担組織について有りと回答したのは、病院では約9割と昨年度と同様であったが、クリニックでは1割にも満たず昨年度より減少した。

(5) 専任組織に専従する職員の職種＜複数選択可＞



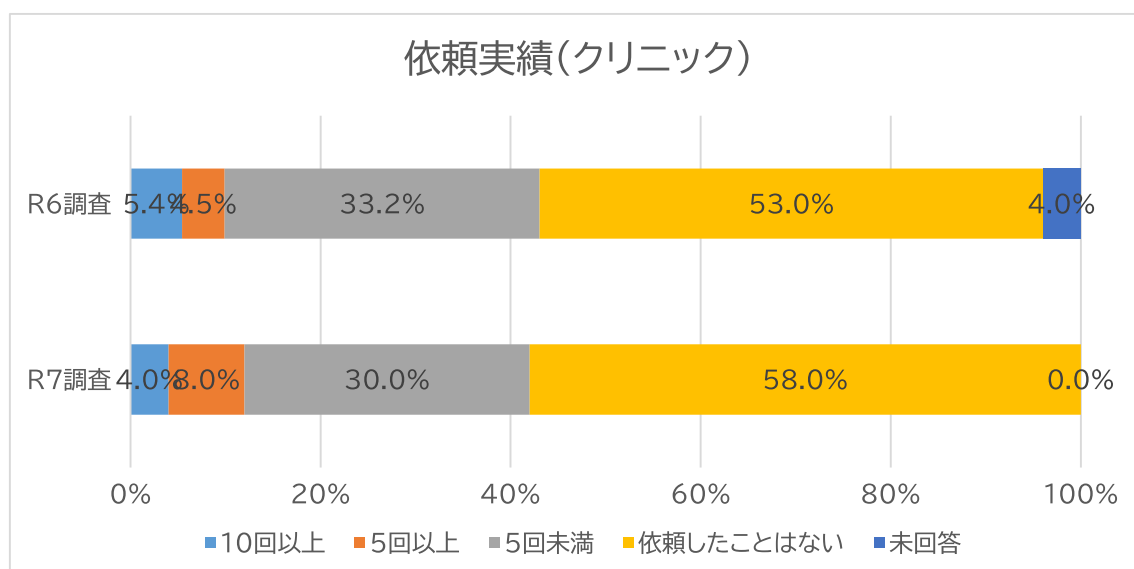
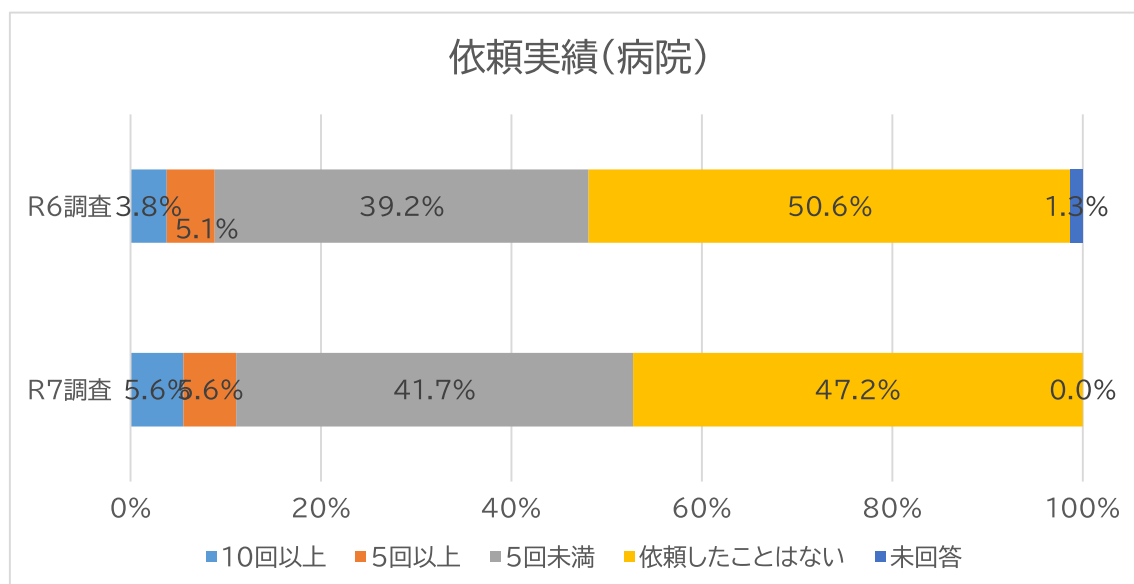
昨年度に引き続き、病院、クリニックともに精神保健福祉士が最多であった。

昨年度、病院において精神保健福祉士に次いで多い職種は事務であったが、今年度は看護師であった。回答いただいた施設のうち精神科を標榜している施設も多くあったことから、精神科入退院支援加算の算定開始に伴い、職員の配置が行われたことも推察される。

「その他」の回答では、社会福祉士を回答される施設が多かった。

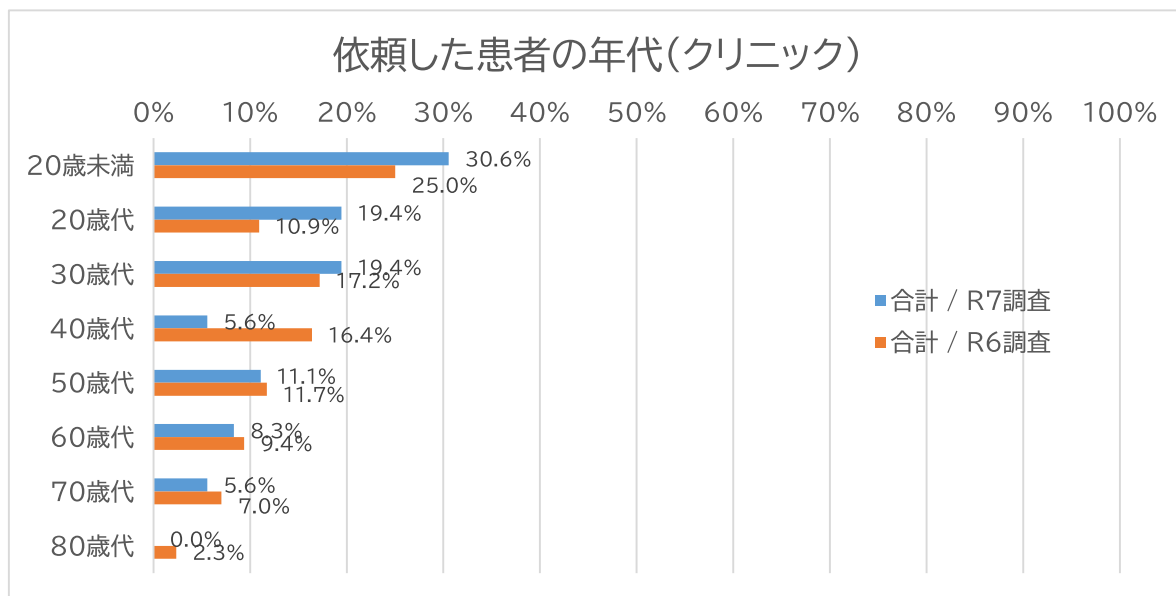
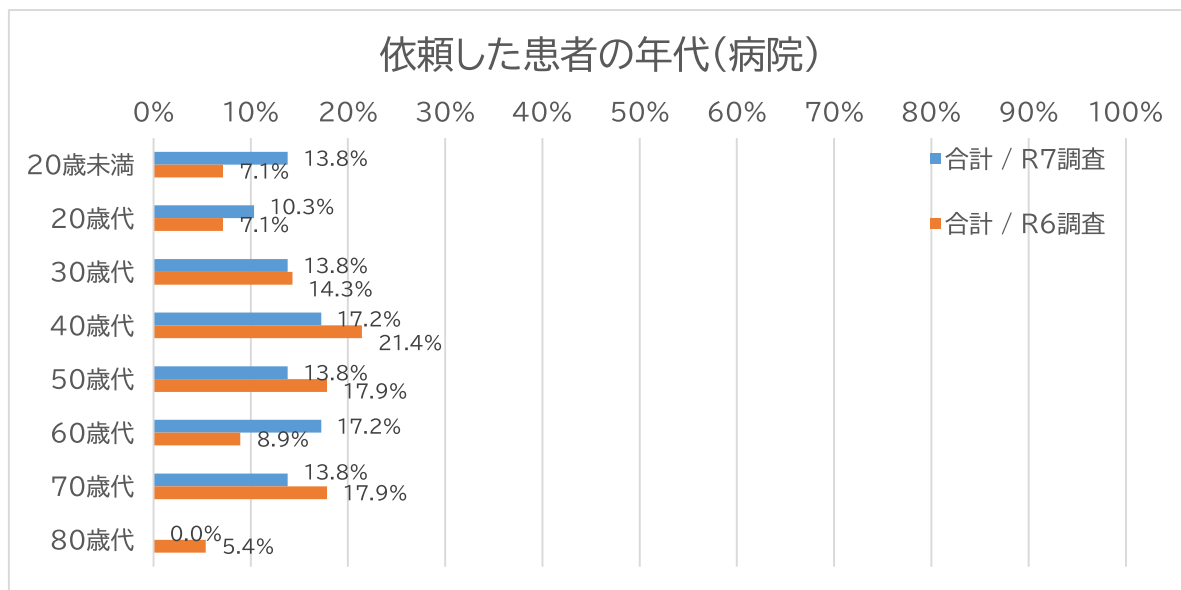
## 2. 当センターの入退院支援センター地域連携部門（旧医療連携室）について

### （1）依頼実績



病院、クリニックともに「依頼したことがない」という回答が約半数であった。  
依頼したことがあると回答したクリニックは、昨年度の 43.1% に対し今年度は 42.0% と 1 ポイント減少した。  
一方で、依頼したことがあると回答した病院は、昨年度の 48.1% に対し今年度は 52.9% と約 5 ポイント増加している。

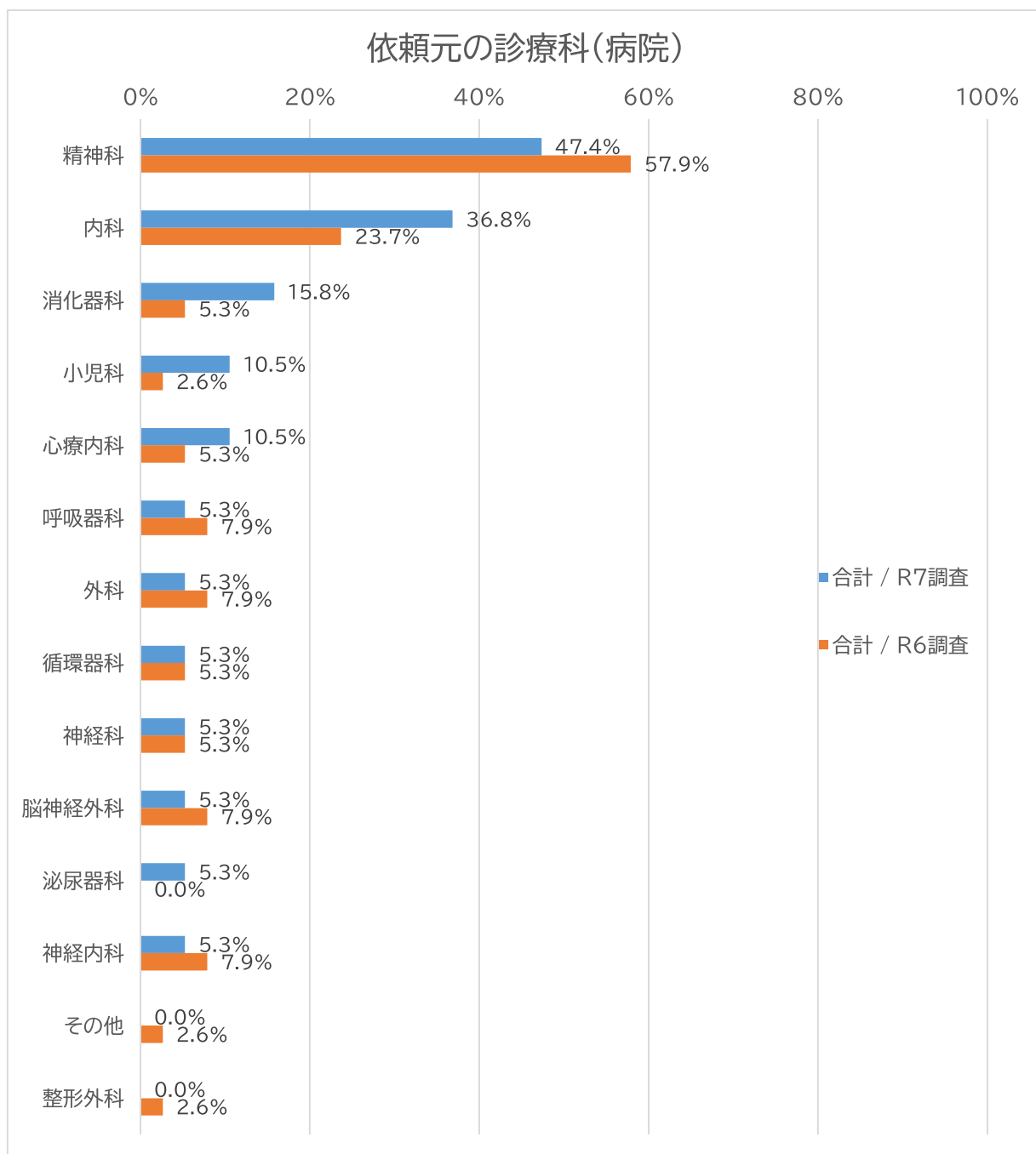
## (2) 依頼した患者の年代

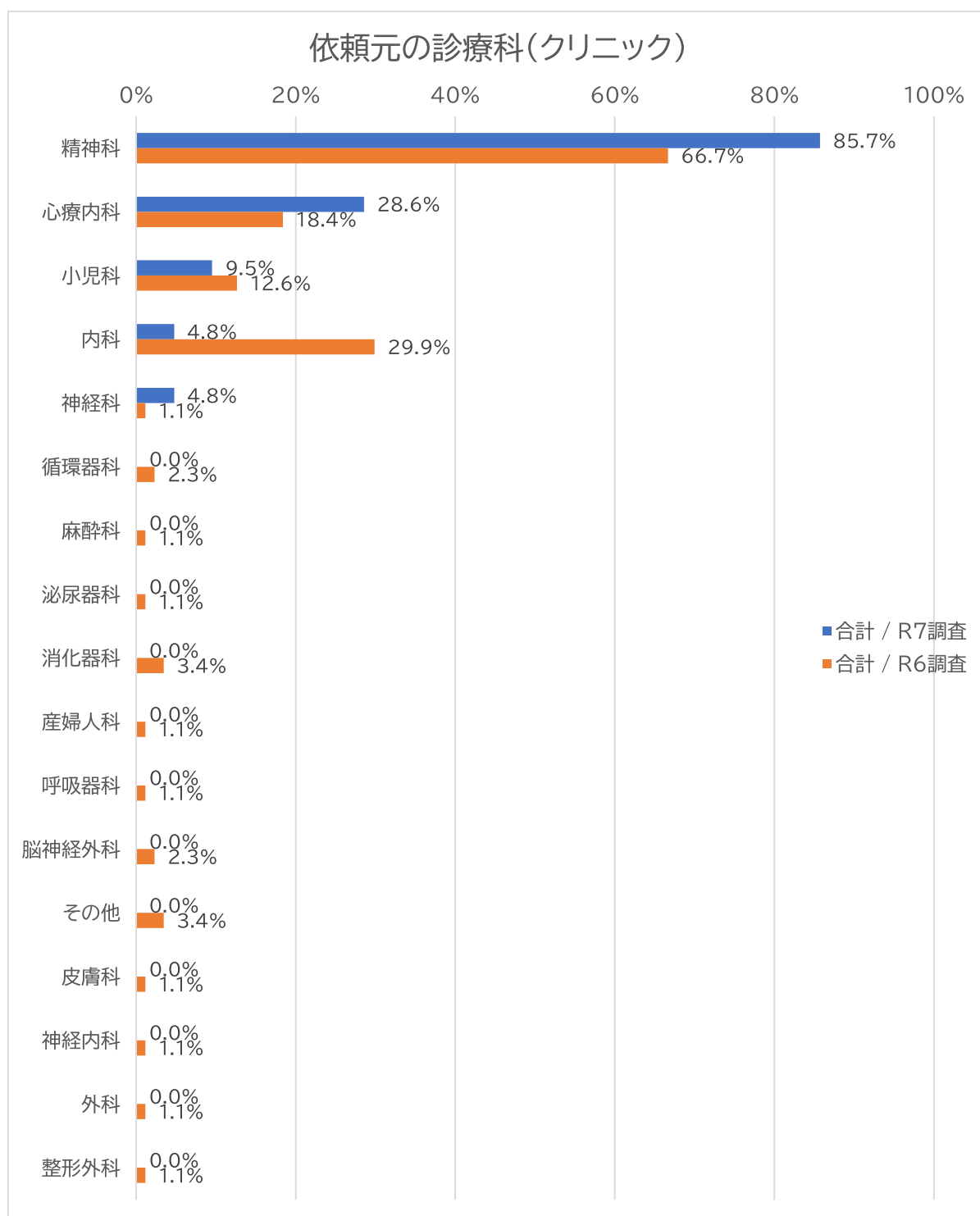


病院からの依頼は年代別に大きな偏りはないが、20歳未満の患者の増加率は6.7ポイントと60歳代(8.3ポイント増加)に次いで多かった。

クリニックからの依頼は20歳未満の患者が約3割と最も多く、高齢になるにつれ依頼が少なくなる傾向があった。

(3) 依頼元の診療科＜複数選択可＞

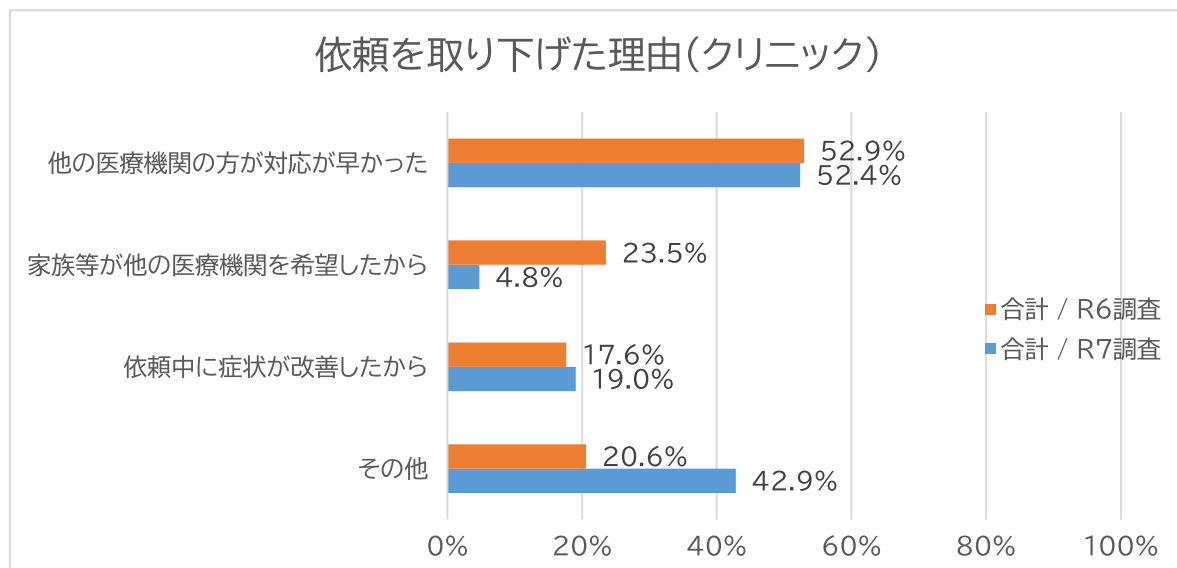
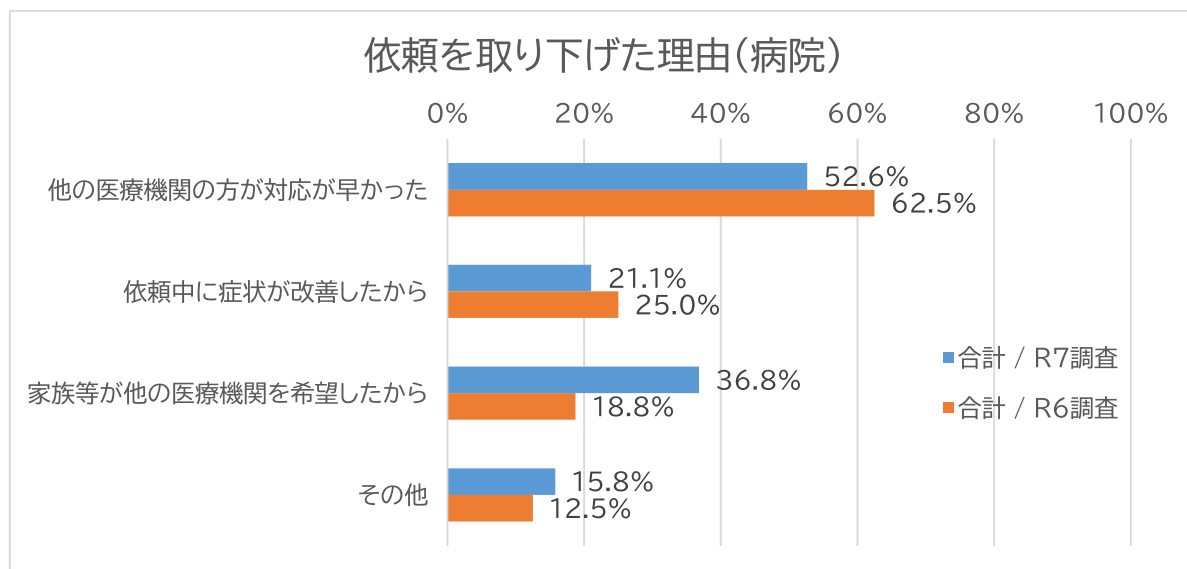




病院・クリニックともに精神科、内科の順で多く、紹介元診療科に大きな差異はなかった。病院においては、内科・消化器科が昨年度よりも約 10 ポイント増加しており、クリニックにおいては内科からの依頼が約 25 ポイント減少しているのに対し、精神科からの依頼が約 20 ポイント増加している。

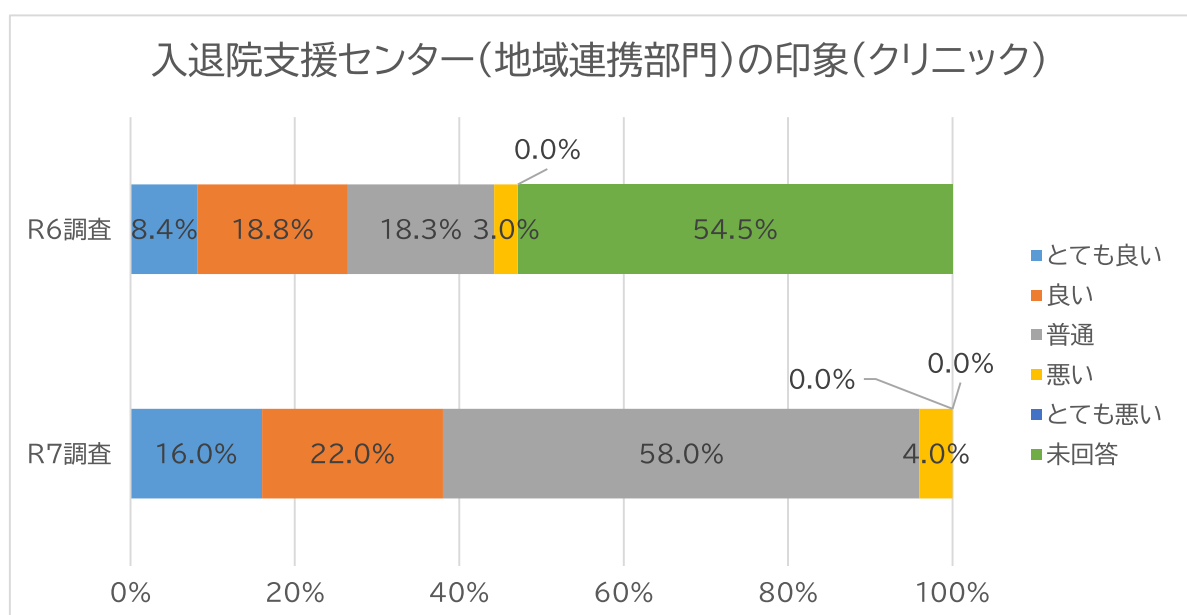
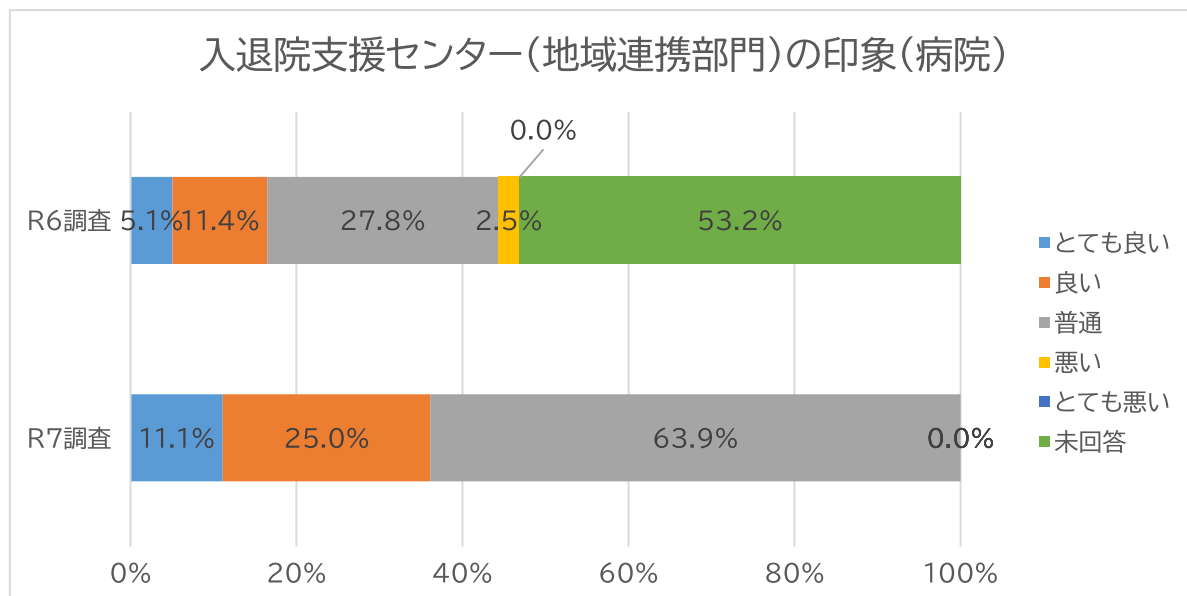
特にクリニックにおいては、若年層の依頼が多かったことから身体的な症状を併発していないケースが多かったと考えられる。

#### (4) 依頼を取り下げた理由



病院、クリニックともに並行して依頼していた他の医療機関の対応が早かったという回答が最も多かった。病院においては、家族が他の医療機関を希望したケースが次いで多く、クリニックにおいては「その他」の中で「取下げ実績なし」という回答が多数を占めていた。

## (5) 医療連携室の印象



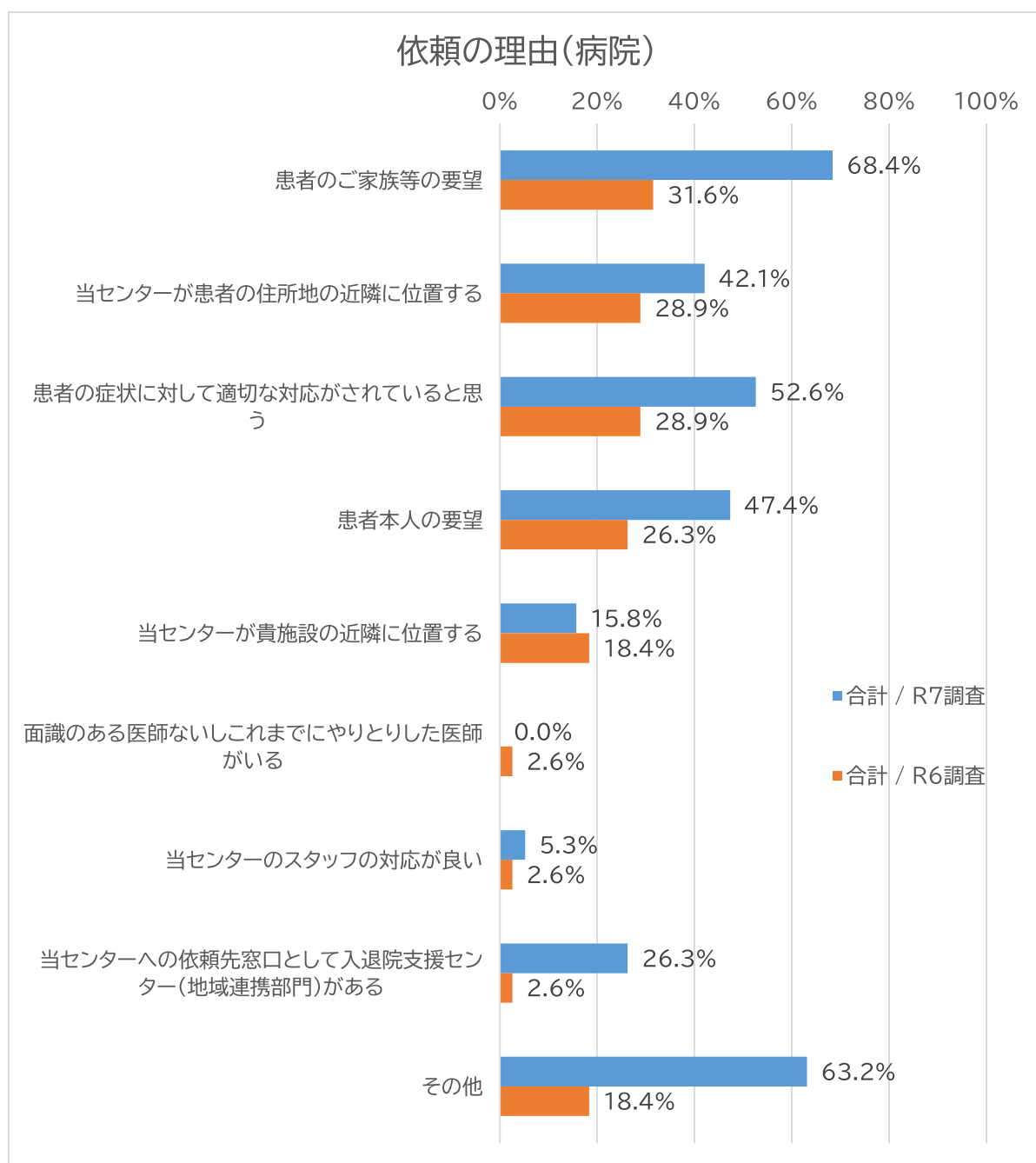
回答が必須の設問としていたことから、未回答は0件であった。

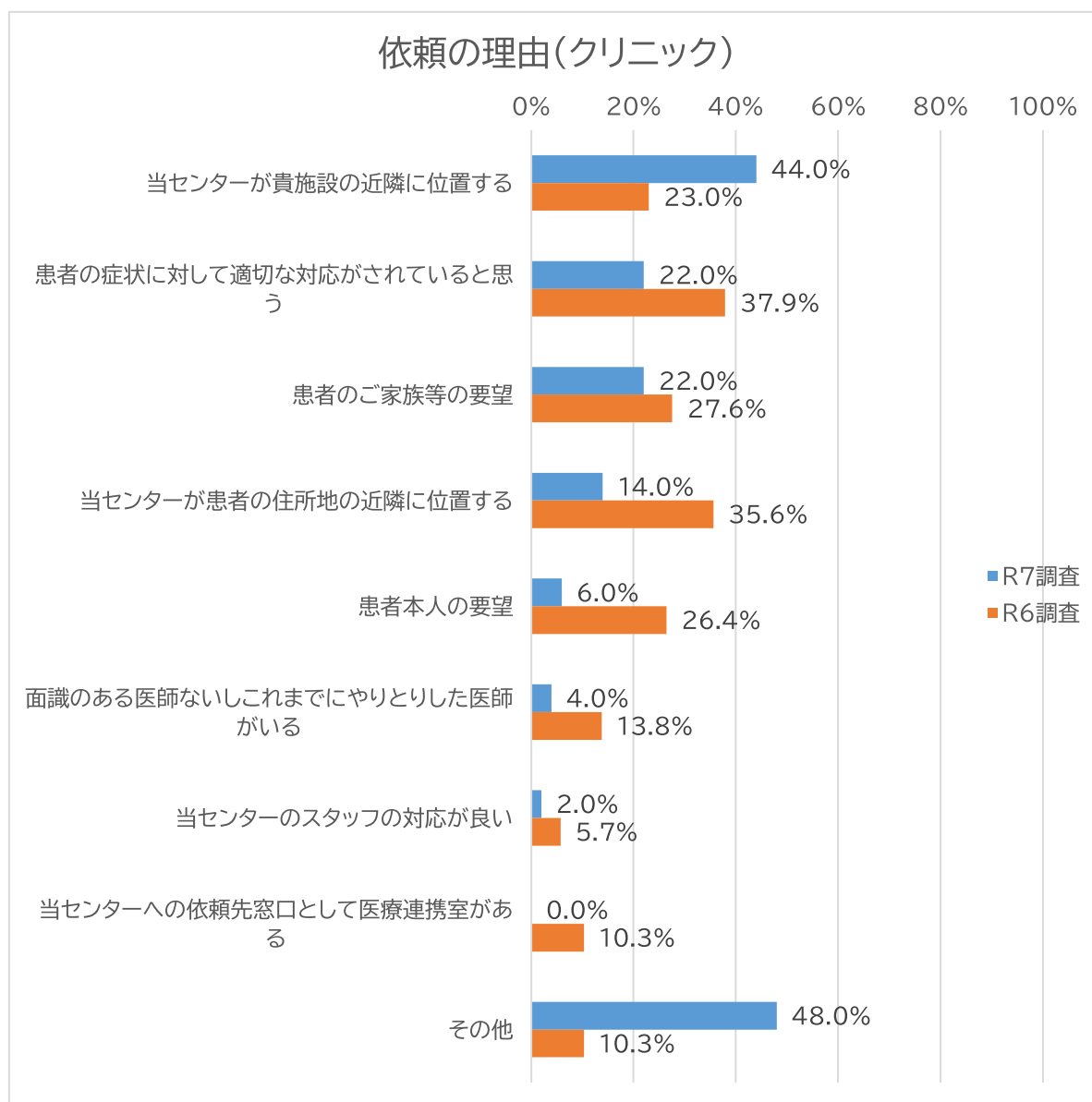
「とても良い」または「良い」と回答した病院は昨年度が16.5%であったのに対し、今年度は36.1%と大きく改善が見られた。また、クリニックについても昨年度が27.2%であったのに対し、今年度は38.0%と病院同様に大きく改善が見られた。

病院、クリニックともに「とても悪い」と回答した施設はなかったものの、「悪い」という回答はクリニックで2件あった。

「悪い」と回答された理由は、「依頼が断られた」が2件あったほか、「依頼してから受け入れまでの時間がかかった」、「症状に対して適切な対応がされなかった」といった意見があった。

#### (6) 依頼しようとした理由＜複数選択可＞





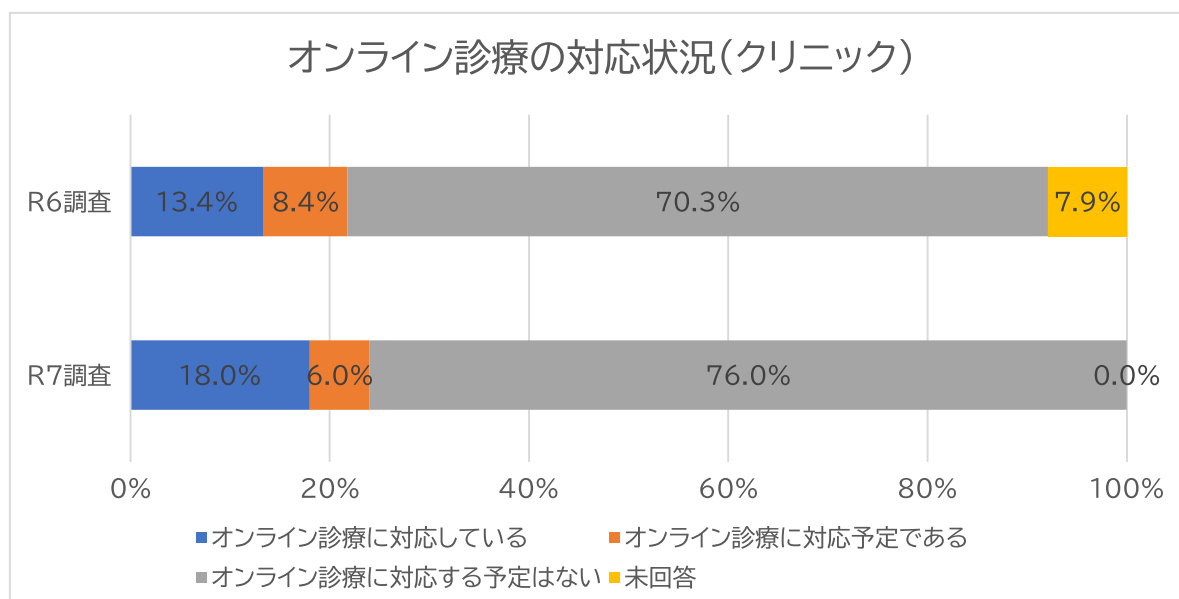
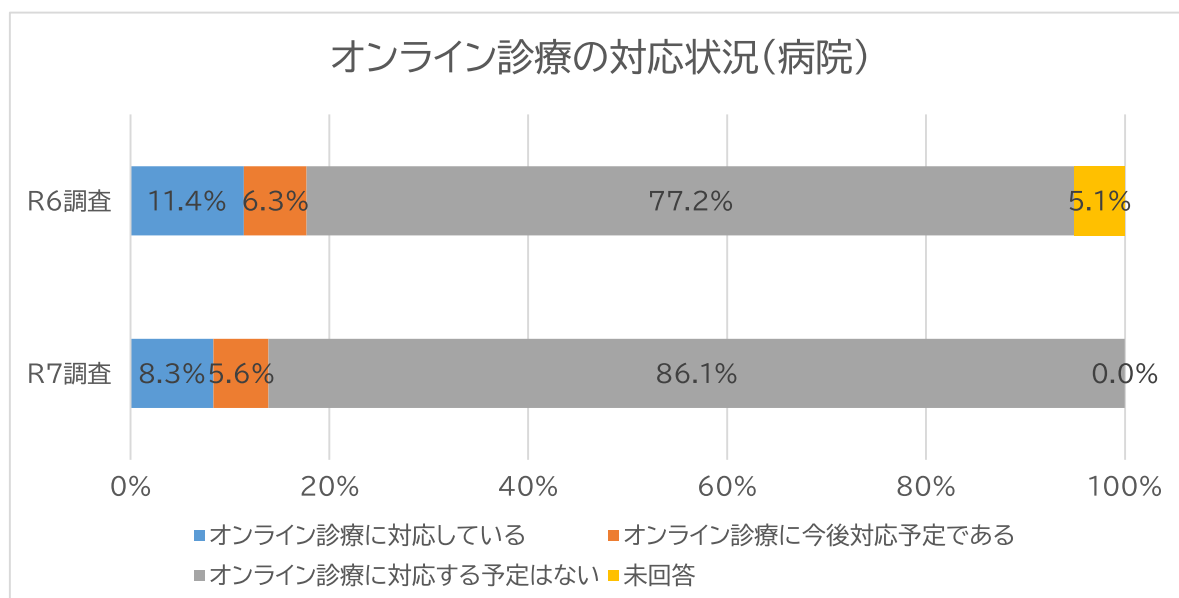
昨年度に引き続き、病院、クリニックともに患者やご家族等の要望、当センターから患者の住所地が近隣であったといった、患者やご家族に起因する理由が多く見られた。

また、「患者の症状に対して適切な対応がされていると思う」については、病院においては昨年度が 28.9%であったのに対し、今年度は 52.6%と大きく改善が見られた。

クリニックにおける「その他」の回答では、「依頼実績なし」の回答が多数を占める中、「児童思春期病棟を有している」といった回答があった。

### 3. オンライン診療について

#### (1) オンライン診療の対応状況

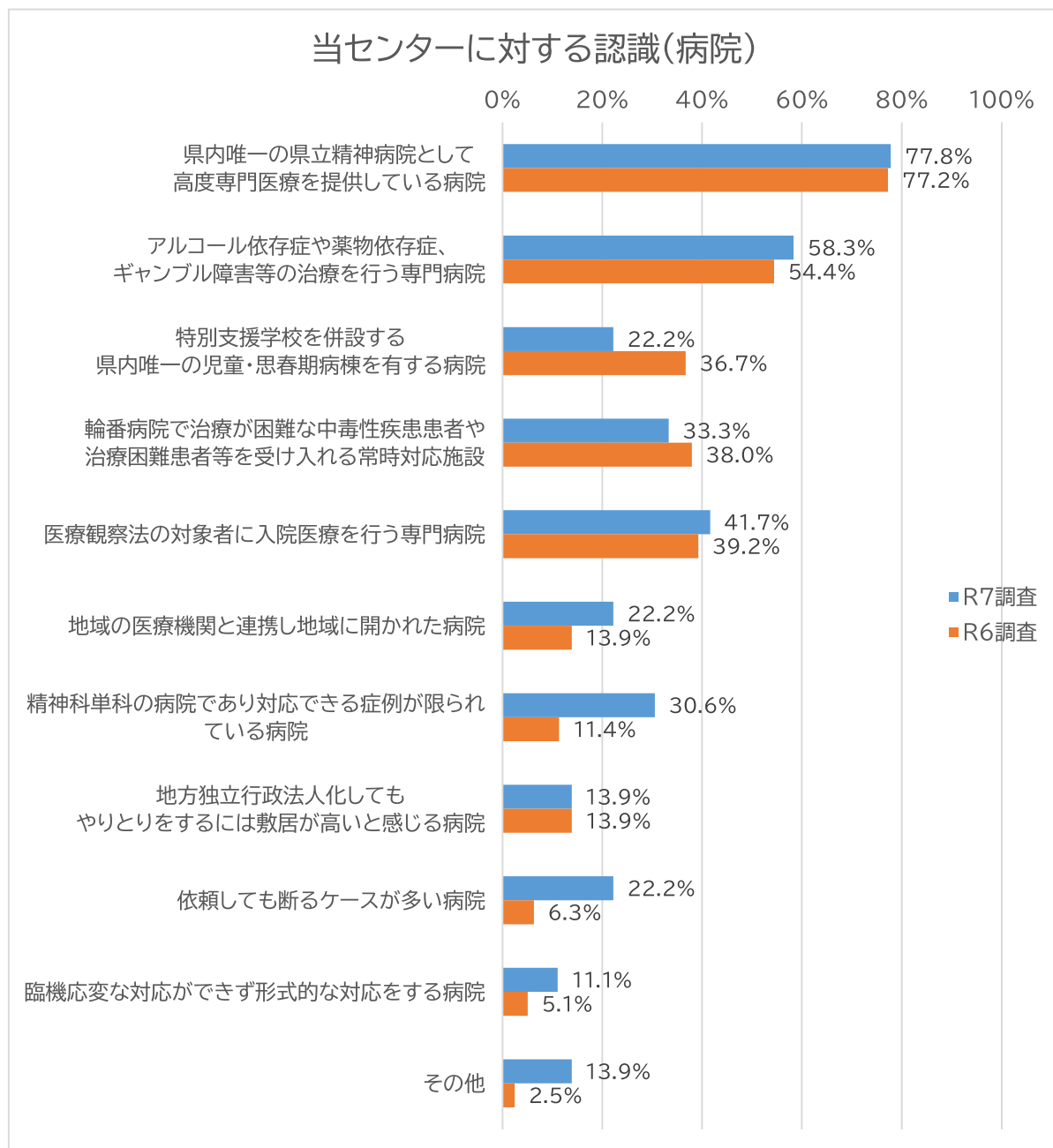


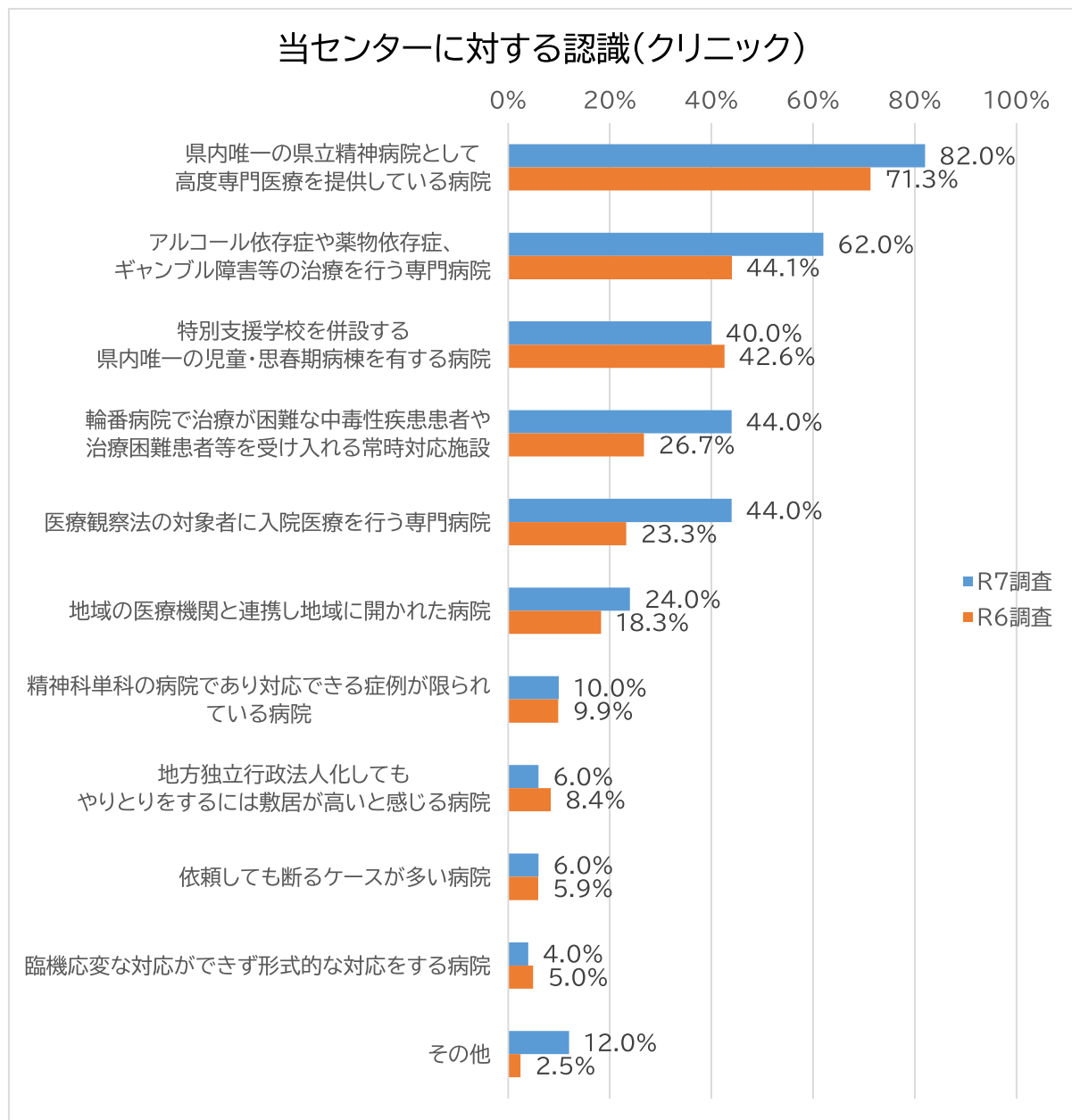
オンライン診療に対応している施設は、病院で8.3%、クリニックで18.0%とどちらも少なく、病院、クリニックともに「オンライン診療に対応する予定はない」という回答が昨年度に引き続き7割以上を占めた。

オンライン診療に対応している診療科として、病院では内科や皮膚科、クリニックでは内科や産婦人科、精神科や心療内科が挙げられた。

#### 4. 当センターに対する認識について

##### (1) 現在の認識



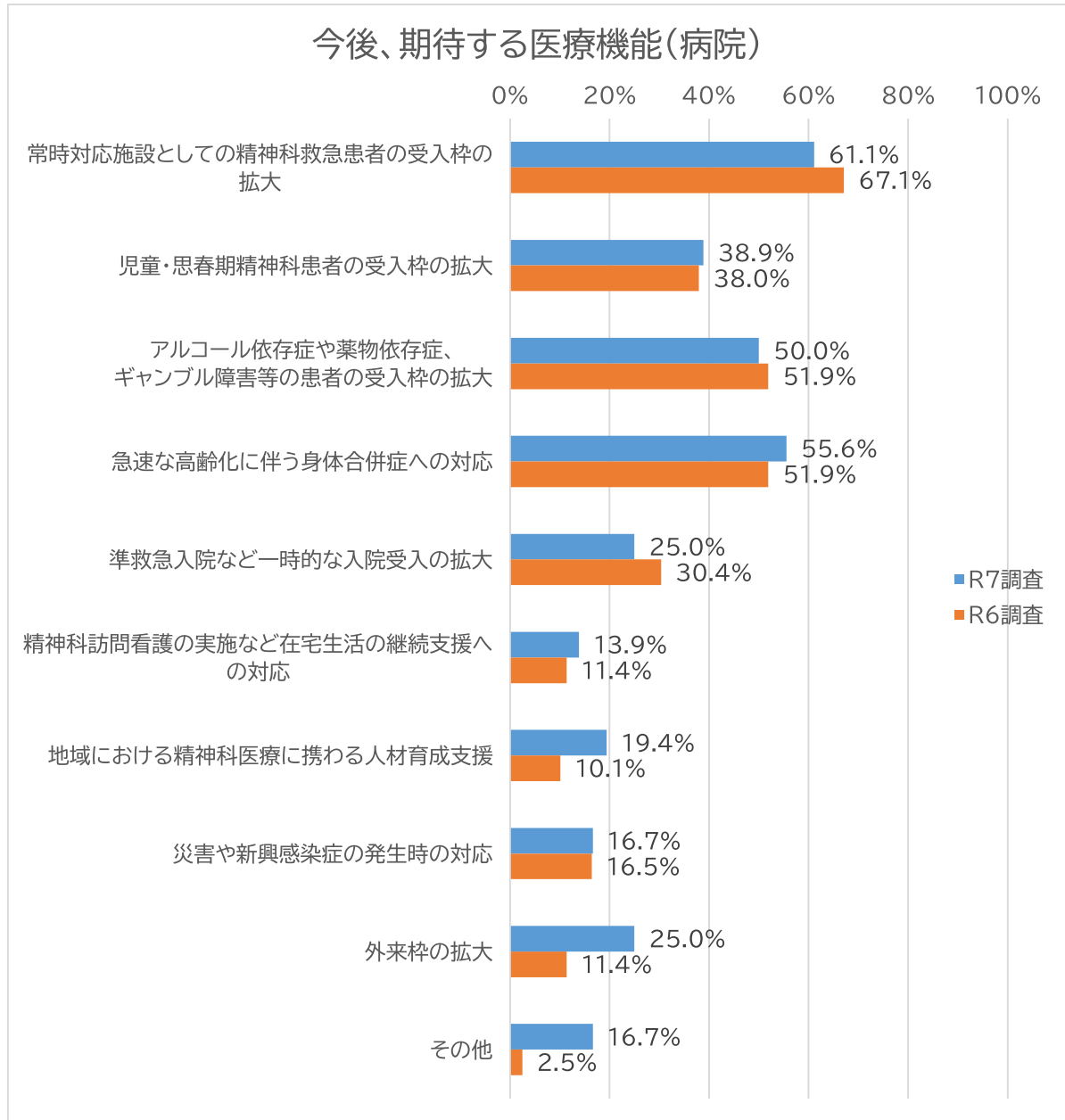


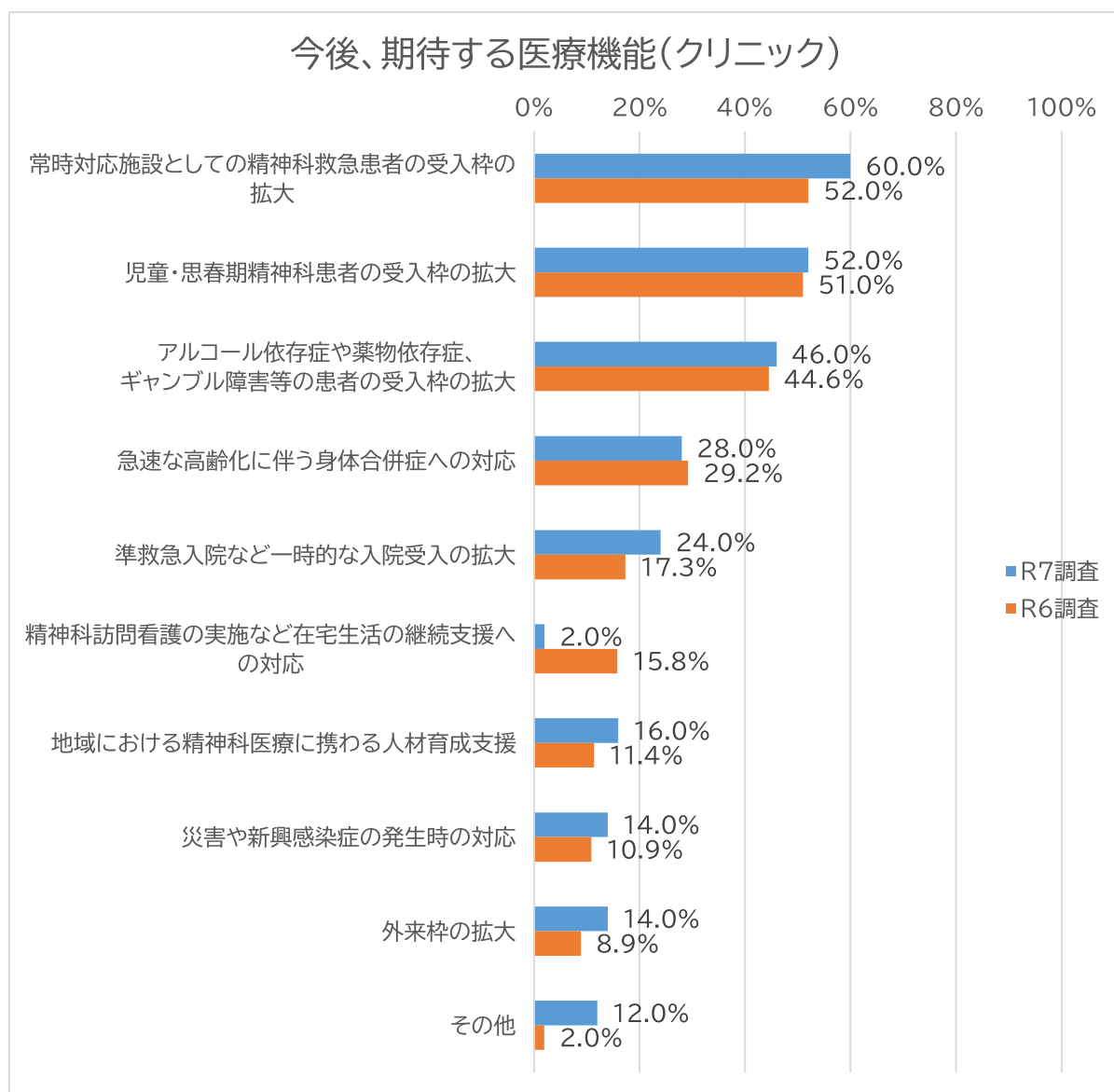
昨年度同様に、病院、クリニックともに県内唯一の県立精神病院であること、依存症の専門治療を行っていることが強く認識されていることが伺える。

また、クリニックにおいて常時対応施設であることや医療観察法の対象者に入院医療を行うことについて昨年度よりも広く認識をされていることが分かった。

一方で、特に病院において精神科単科病院であり対応できる症例が限定されることなどが昨年度より増加しており、急速な高齢化の進展を背景に現状においてもできる限り身体合併症への対応も講じていく必要がある。

## (2) 今後期待する医療機能

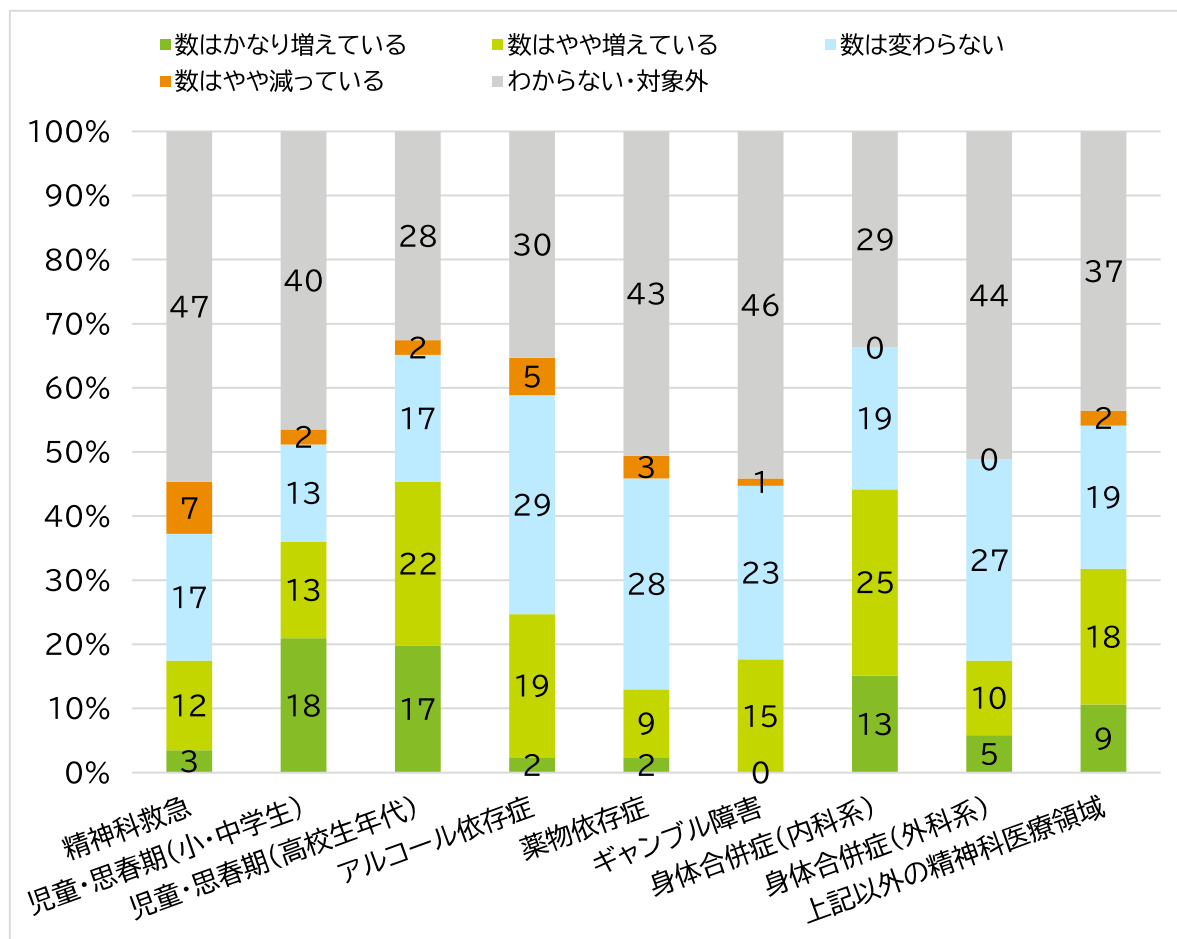




昨年度同様に、病院、クリニックともに精神科救急患者や依存症患者の受入枠拡大のニーズが多く、病院では身体合併症、クリニックでは児童・思春期のニーズも高いことが伺える。

## 5. 埼玉県精神医療における将来ニーズ

### (1) 過去5年間の各分野における需要変化

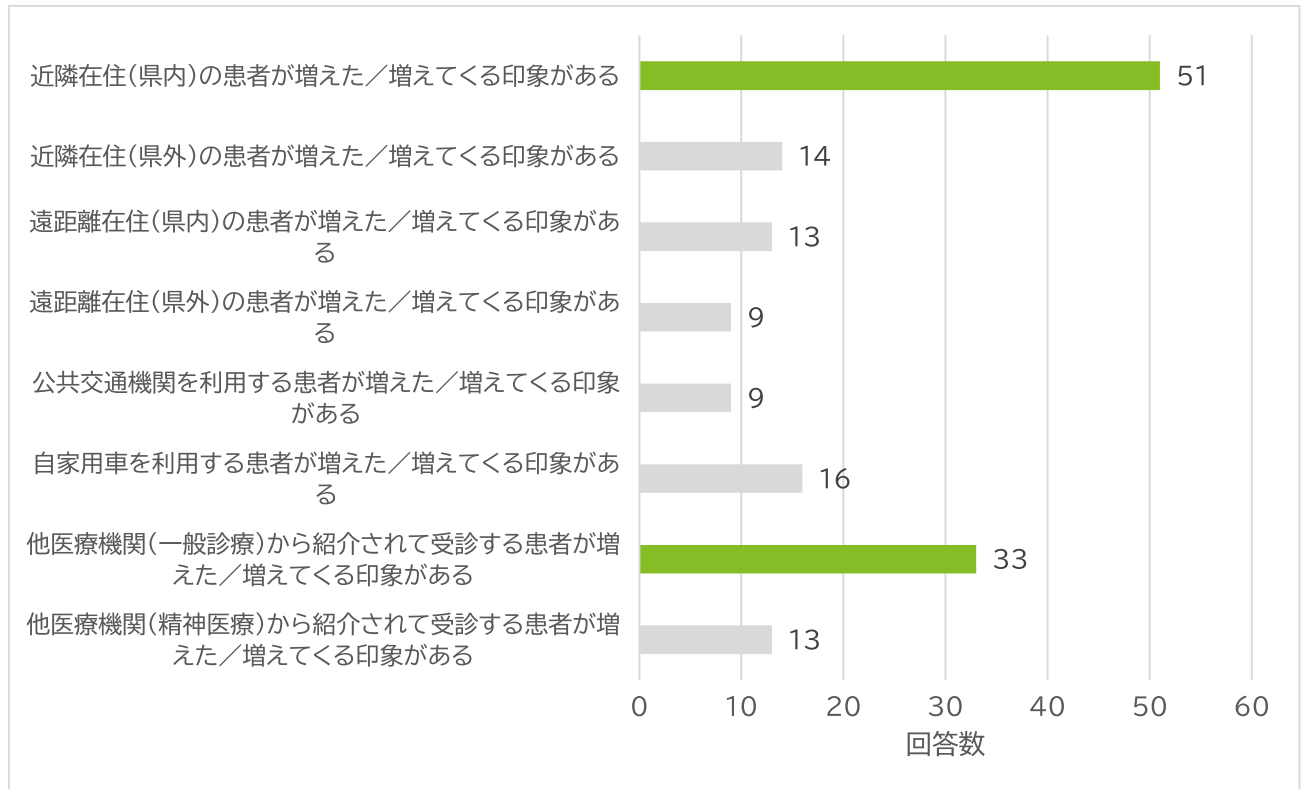


【出典】デロイト トーマツ作成「埼玉県立精神医療センターの在り方検討に関するアドバイザリー業務最終報告(令和7年11月26日)」(抜粋)

病院、クリニックとも各分野における需要変化について、「数はかなり増えている」、「数はやや増えている」と回答したのは身体合併症（内科系）が最も多く、次いで児童・思春期（小・中学生／高校生年代）が多かった。

また、「上記以外の精神科医療領域」では、「発達障害」や「認知症」を挙げる回答が多かった。

## (2) 患者の受療動向（医療アクセス）

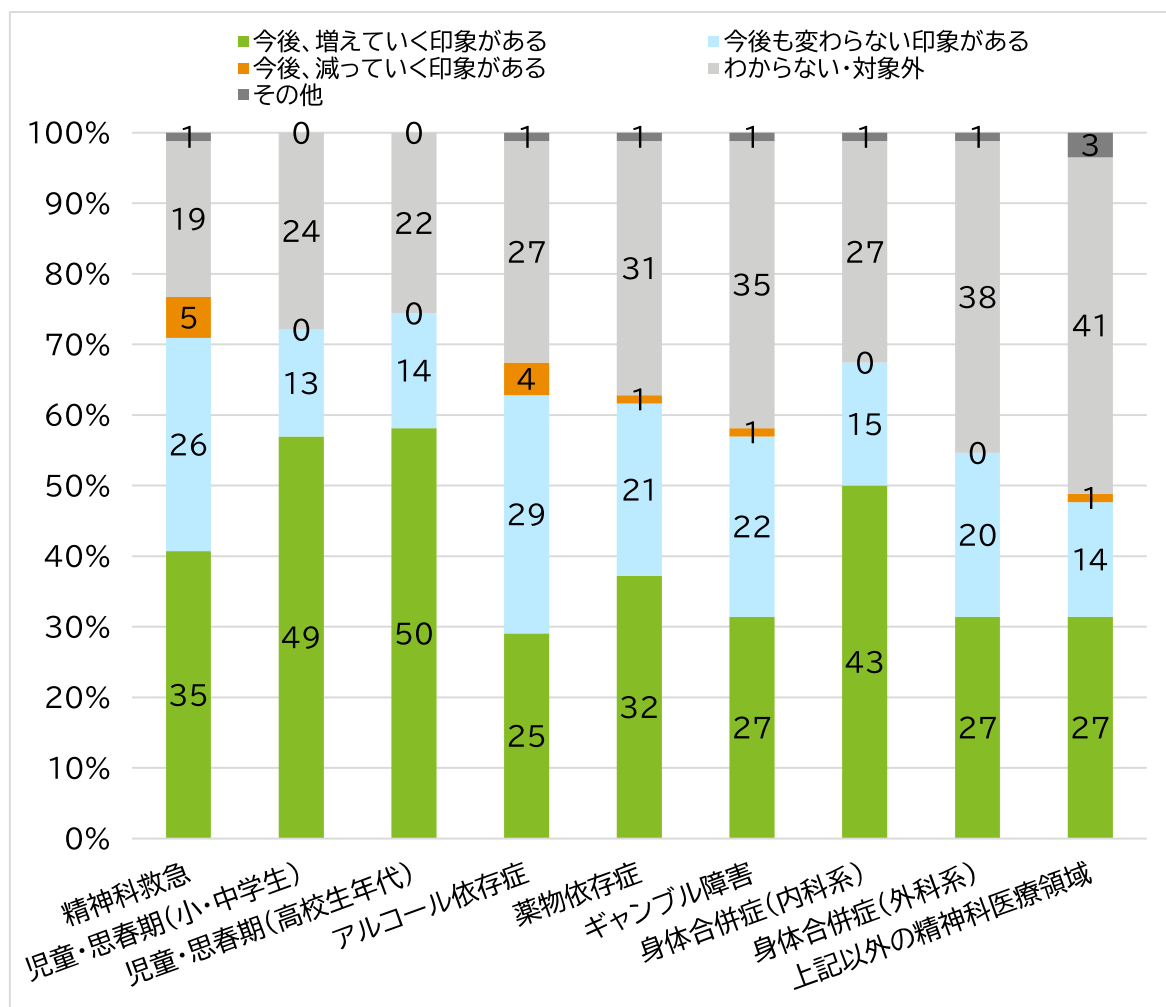


【出典】デロイト トーマツ作成「埼玉県立精神医療センターの在り方検討に関するアドバイザー業務最終報告(令和7年11月26日)」(抜粋)

遠距離よりも近隣在住、県外よりも県内の患者の増加を感じている施設が多いという回答が得られた。また、一般診療の医療機関からの紹介も増加していると感じている施設が多くあることが伺える。

また、県内では近隣・遠距離のいずれにおいても、さいたま市や上尾市からの患者が増えてくる印象があると回答した施設が多かった。県外からは東京都や群馬県からの患者が増えてくるという回答が多かった。

### (3) 今後の地域の医療ニーズについて

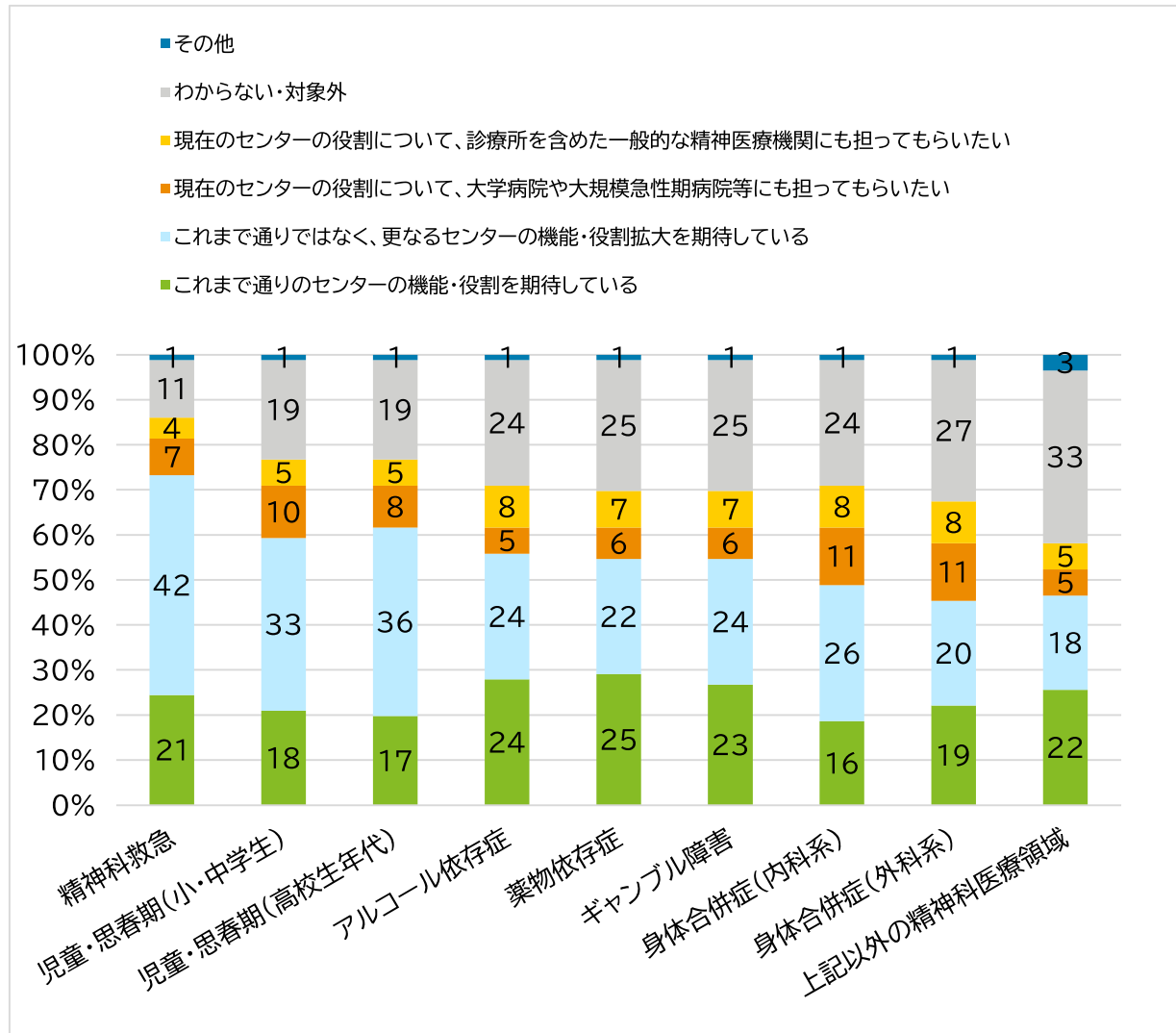


【出典】デロイト トーマツ作成「埼玉県立精神医療センターの在り方検討に関するアドバイザー業務最終報告(令和7年11月26日)」(抜粋)

病院、クリニックとも今後の地域の医療ニーズについて、「今後、増えていく印象がある」と回答したのは児童・思春期（小・中学生／高校生年代）が最も多く、次いで身体合併症（内科系）が多かった。

また、「上記以外の精神科医療領域」では、「発達障害」、「認知症」を挙げる回答が多かった。

#### (4) 当センターへの期待



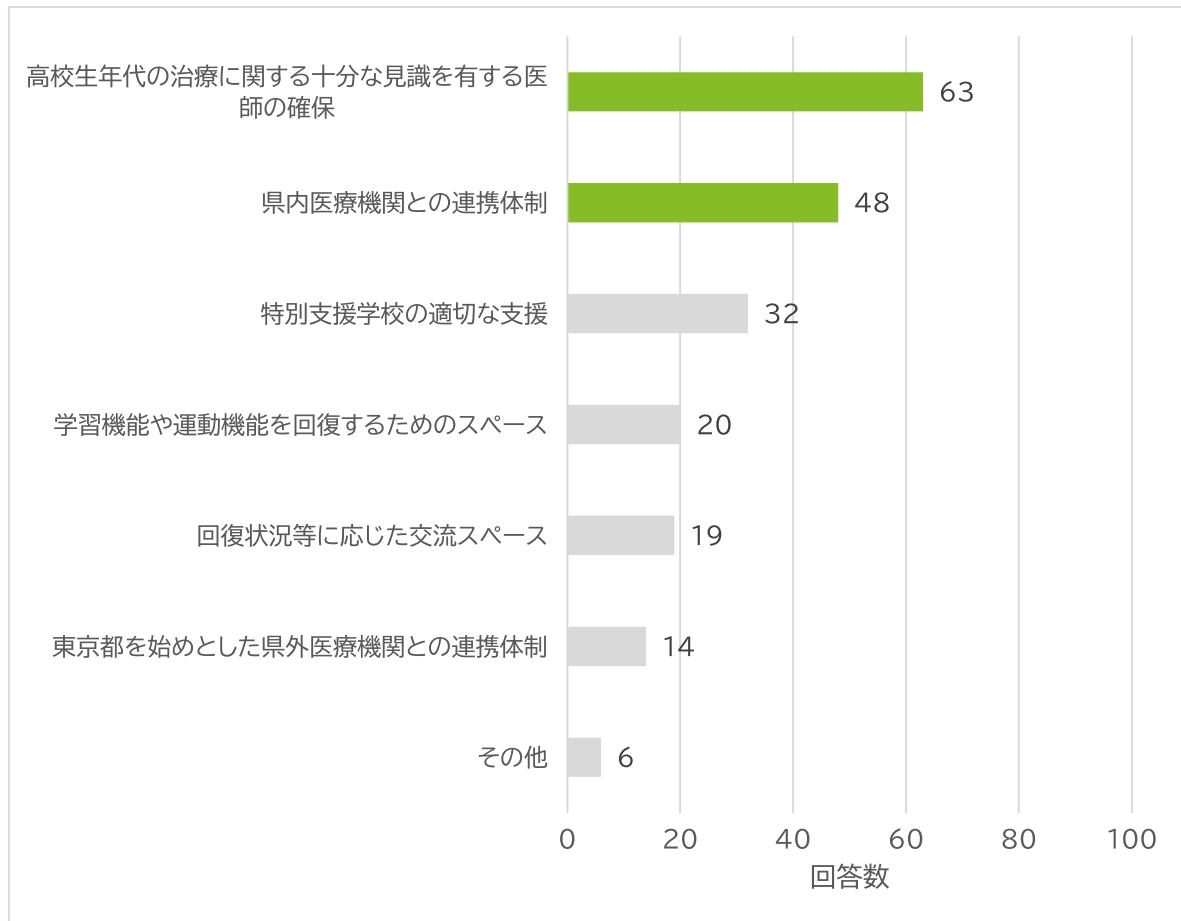
【出典】デロイト トーマツ作成「埼玉県立精神医療センターの在り方検討に関するアドバイザー業務最終報告(令和7年11月26日)」(抜粋)

病院、クリニックとも精神科救急（スーパー救急）、児童・思春期（小・中学生／高校生年代）における機能・役割拡大を期待するという回答が多かった。

また、アルコール依存症など依存症関連についてもこれまで通りの機能・役割を期待している回答が多かった。

「上記以外の精神科医療領域」では、特に「発達障害」を挙げる回答が多かった。

#### (5) 児童・思春期（高校生年代）の対応に求められる体制・設備



【出典】デロイト トーマツ作成「埼玉県立精神医療センターの在り方検討に関するアドバイザリー業務最終報告(令和7年11月26日)」(抜粋)

高校生年代の治療に十分な見識を有する医師の確保をはじめ、県内の医療機関との連携体制の構築など人材面も含めた治療環境の整備に関する回答が多かった。